

会 議 録		
附属機関又は 会議体の名称		第 2 回 男女平等推進センター運営委員会
事務局(担当課)		男女平等推進センター
開催日時		令和7年 7 月18 日(金) 午後3時～4 時 45 分
開催場所		男女平等推進センター研修室 2
出席者	委員	須藤 啓光 濱口 恵子 高橋 あかね 岸 知秀 松本 憲藏 阿部 達明 鈴木 美千花 長島 千代美 渡辺 寛子 男女平等推進センター所長
	事務局	4 名
会議公開の可否		公開・非公開・一部公開 傍聴人 0 名
非公開・一部公開 の場合はその理由		
会議次第		議題 1 事業報告及び今後の予定について 2 エポック 10 フェスタ・プレフェスタ 2025 の開催報告について 3 連絡事項 (1)第 3 回男女平等推進センター運営委員会日程調整 (2)その他 (3)第 32 期運営委員の任期満了等について
審議経過		
委員長 令和7年度第 2 回豊島区男女平等推進センター運営委員会を開会する。 所長 前回の運営委員会は欠席したが、相談グループ係長の森田が今年4月から着任している。 委員長 本日は傍聴希望の方はいらっしゃるか。 事務局 本日はいらっしゃらない。 委員長 資料の確認をお願いする。 事務局 ー資料の説明・確認ー 【議題 1】事業報告および今後の予定について 資料1-1 「R7 年度第 2 回運営委員会 事業報告(庶務・計画調整G)」の説明 ー委員からの質疑および意見ー 委員長 当事者でも、パートナーシップ・ファミリーシップ制度の活用方法を知らない人が多い。家を購入する時に受理証明書等を使うが、最近は賃貸での活用も増えている。ライフイベントが発生		

する機会がないと制度の必要性がわかりにくいものであるため、利用数は徐々に増えていくのではないかと。豊島区はパートナーシップ・ファミリーシップ制度の届出するときに書類提出から何日後に交付されるのか。

事務局 オンライン届出の場合、およそ 5 営業日だが、来所された場合は書類が整っていれば当日中に渡している。

資料1-2 「R7 年度第 2 回運営委員会 事業報告(事業企画 G)」の説明

—委員からの質疑および意見—

委員長 大正大学表現学部文化学科の講義に参加された運営委員の方はいるか。

A 委員 参加した。大学 2 年生が8つのグループに分かれて発表する形式。プレゼンの資料も作りこまれて堂々と発表していた。発表時の問題提起としては、日常と SNS が紐づいているものが多く、若者視点だと感じた。実現に向けたハード面の補完を大人と一緒にできれば面白いアイデアが多いと思った。

所長 表現学部ではエンターテインメントの力で社会課題を解決するという授業を 1 年間行っている。その中で、企業や自治体など外部に提案している。最初のクールは豊島区のアンコンシャスバイアスに関する企画提案を行った。

資料 1-3 「R7 年度第 2 回運営委員会 事業報告(相談G)」の説明

—委員からの質疑および意見—

B 委員 男性相談の件数は少ないようだが、どのような状況か。

所長 男性相談、にじいろ相談は、月 1 回行っている。区の X で告知したり、チラシを作ったりして周知活動を行っている。今年度は周知カードも作り、男性トイレや多目的トイレに置いている。今後も周知を続けていきたい。

B 委員 男性相談と言われると、男性はどういう相談をすればよいのかと思ってしまう。一般的な相談なのだと思うが、男性相談をしていると、男性自認の方のみ、など色々考えてしまう。よろず男性相談というのならわかりやすいのだが。

所長 エポック 10 には女性相談しか今までなかった。男性向けに区役所の窓口相談は、問題を解決するための手段で部署が分かれている。エポック 10 の相談は、「男らしくせねばならない」のようなジェンダーによる相談で、すぐに解決してほしいなどの明確な要求がある相談ではない。

- B 委員** 間口を広げるという意味で、よろず男性相談とするか、男性と入れずによろず相談として女性やにじいろ相談があったらそちらの窓口を紹介する方がよいのではないかと。男性、女性、にじいろとすると、限定されている感じが強く間口が狭まっている。
- 委員長** 間口を広げると相談者が増えるかもしれないと思う一方で、相談する側は、誰がどんな対応をするのかということがわかりやすい方が相談しやすいと感じている。男性が相談してもよいという心理的安全性が日本社会ではまだ担保されていないので、件数も増えないのではないかと。相談先が官民両方の側面に必要であり、相談窓口を継続していただきたい。
- B 委員** 相談しやすくなるようなネーミングの付け方があるのではないかと。男性というと漠然としていて、ターゲットが絞れていないような気がする。
- 委員長** あえてその男性というカテゴリーにはめているが、逆に言うとそこでしかはめていない。男性だったら相談しやすい窓口として作っている。
- C 委員** 女性相談が先にあって、その後に男性もということになったのか。
- 所長** そうだ。男女平等推進センターの相談は、今までは対象が女性だけだったので、男性、にじいろと取り入れている。男性は、女性とまた違う形で相談したい、したくないというのがあと思うので、どうすれば男性に受け入れてもらえるのか、ネーミングも含めて考えていきたい。
- 委員長** 民間では当然にやっていることが、行政側では実施できていないということは多々ある話。日本社会において、そもそも男性が相談して良いのだと思えるところまでできていないので、認知も広がらないのではないかと。もちろん、こちら側の認知拡大施策が追いついていないことが前提にあるが、そもそも社会構造的に相談しにくいところがあると思う。
- 所長** 男性相談の相談件数を増やしていきたいので、いろいろなご意見いただければ、どのように改善すればよいか参考になる。
- D 委員** 男性相談という言葉に何の違和感も持たなかった。男性に関しての窓口もできたのだなと思った。ただ、男性の立場からの意見もあることが分かった。女性という言葉を外してよろず相談とすることも考えられるが、女性の立場からすると女性の気持ちを聞いてくれる相談の場所とわかる方が、相談しやすい。
- 所長** 本日いただいた意見を踏まえ、検討していきたい。男性に届くように伝えたいので、名前を変えるのか、PR するときにもっと要素を入れるのか検討していきたい。
- D 委員** 登録団体の男性会員に、男性相談についてヒアリングしてみてもよいのではないかと。

【議題2】エポック 10 フェスタ・プレフェスタ 2025 の開催報告について

—資料2 R7 年度「エポック 10 フェスタ 2025」事業報告書について事務局より報告—

—委員からの質疑および意見—

C 委員 有害な男らしさとは、どのような意味か。

所長 男らしくしなければならないということに縛られすぎているという意味で有害と言っている。自分の学校の人たちにアンケートを取り、男らしさ女らしさについて同性と異性で求めることが違っているなど、発表しながらディスカッションも行ってくれた。

E 委員 私が所属する団体のメンバーがその講座に参加し、とてもよかったと言っていた。

B 委員 本郷中高と女子学院中のそれぞれで発表したのか。

所長 本郷中学高等学校に社会部という部活があり、社会課題などについて勉強をしている。ジェンダー意識も高いので、若年女性の支援をしているすずらんスマイルプロジェクトと社会部がつながり、フェスタでの発表も依頼をした形。社会部と女子学院中に繋がりがあり、それぞれ男子校、女子高という視点から研究して、一緒に発表してくれた。

F 委員 毎年すごくいいコンテンツがあるのに、日程的にいけない。アーカイブを残すことはできないのか。

事務局 記録誌は作っているがアーカイブは残していない。対面講座は撮影機材がなく物理的に残すことが難しく、オンライン講座はセキュリティポリシーの関係で録画が禁止されている。

委員長 私もアーカイブがあるとよいと思う一方で、1 つ懸念するのは、エビデンスを残されて切り取られるのが怖いということ。アーカイブの残し方については議論が必要ではないか。

D 委員 資料に企画団体名が載っていない。次回は講師と企画団体名を一緒に載せてほしい

委員長 昨年と比べてプレフェスタの来場者はどうだったか。

所長 残念ながら、昨年より来場者は少なかった。

事務局 当日は天気が非常に悪く、日曜は特に風も強かったので、それも 1 つの要因ではないかと考えている。

A 委員 講座数はどうか。

- 事務局** 講座数は増えたが、来場者は減っている。
- 委員長** 私の会は増えた。当日参加や豊島区のホームページを見てきたという方もいらっしやった。じわじわと草の根で伸びつつある。やはり継続していくことに意義があると思う。
- 所長** 当日参加は今回初めて行った。
- E 委員** 全部参加したいが、講座時間が重なっていたり、朝から晩までは体力続かなかったり、見られる数に限りがある。それがもったいない。もっとみんなに聞いてもらいたい。
- 所長** それについてのご意見はいただいていて、課題と感じている。
- D 委員** 以前からチラシを 900 枚ほど配っているが、コロナ前は効果がありませんでした。今回は、チラシと区のホームページ、うちの場合は保健所のホームページに載せていただいている、それらを見てくださっている。チラシの効果を見直した。
- E 委員** 私の知り合いは、迷子になったとのこと。会場の認知度を上げていかなければならない。
- G 委員** YouTube でのライブ配信はやらないのか。地方の方もアクセスしてくれるのではないかな。
- 委員長** 1 つは通信環境の問題。Wi-Fi が通っていない部屋があり、テザリングでできるが重くなる。もう 1 つは、地域に根付いて活動している方々だと、オンラインで展開していきたいが現実的にリソースが不足しているために実現しにくいということがある。
- 事務局** エポック 10 フェスタではイケビズの 6 階会議室も使っているが、フリーWi-Fiしかなく接続状況が良くない。ライブ配信をするのであれば、設備を準備するところから始めないと難しい。
- 委員長** 行政としては用意できないのなら、参加団体側でどうにかできないかといった議論をした記憶がある。各団体が自分たちで録画して、後で展開するといったことが可能なのだろうか。
- 所長** 区のルールとして、できるかどうかというところ。
- G 委員** Youtube は無料なので、やった方がよいと思う。
- D 委員** 発信の仕方を時代に合わせていくと、もっと集客できて宣伝できる。ただ、YouTube など、やりたいと思っても知識があるメンバーがいないと難しい。

A 委員	高橋シズエさん(地下鉄サリン事件被害者の会)の話を聞いた。実際に当事者の話を聞くことで、当時のメディアがどんなことをしていたのか知ることができた。これは、戦争もそうだが今の世代に伝え続けることの意義を感じた。同じことを繰り返してはいけないと思う。
H 委員	参加人数が少なくもったいない。若い世代にも刺さると思う。
委員長	性別や世代問わず、いろいろな方が積極的に参加してくれる、いろいろなものを学べる機会なので、ぜひこの運営委員会からも広げられるようにご協力いただきたい。
【議題 3】連絡事項	
委員長	(1)第 3 回男女平等推進センター運営委員会日程調整 続いて次回の運営委員会の日程を決めたい。
事務局	次回開催は 10 月 22 日(水)15 時とする。
委員長	(2)その他 連絡事項やご質問があれば挙手をお願いする。 (委員会の出欠について質問あり)
事務局	(3)第 32 期運営委員の任期満了等について —任期満了委員の挨拶—
事務局	第 35 期の委員募集期間は、7 月 15 日から 8 月 12 日 17 時までとなっている。また、エポック 10 登録団体に募集のメールをお送りさせていただく。
委員長	以上で第 2 回男女平等推進センター運営委員会を終了する。
提出資料	資料1-1 R7年度第 2 回運営委員会 事業報告(庶務・計画調整 G) 資料1-2 R7年度第 2 回運営委員会 事業報告(事業企画 G) 資料1-3 R7年度第 2 回運営委員会 事業報告(相談 G) 資料2 R7 年度「エポック 10 フェスタ 2025」事業報告書